

共に未来を育てるために
進路指導の

現場から

第9回

2016年度は4人が
海外大へ進学

——貴校の進学状況について、
教えてください。

本校は国際文化科、情報科学科
の2学科を設置する県立高校で、
2015年度からスーパードグロ
バルハイスクール（SGH）に指
定されています。1学年約140
人が在籍し、ほぼ全ての生徒が4

年制大学をめざします。
本校の特徴は、国際文化科の中
に2年生から海外大学進学コース
を設けている点です。このコース
には例年5、6人の生徒が在籍し、
通常の授業のほかに「グローバル
スタディーズ」という授業を設け、
英語の外部資格・検定対策、エッ
セイライティング指導などを行
います。2016年度の卒業生で海
外大学に進学したのは4人おり、

面談を何度も重ねることで

海外大を含め志望理由を明確にさせます



新潟県立国際情報高校
進路指導主事

金子将人

かねこまさと ●教員歴17年。同校に赴任して6年目。2016年より現職。進路指導においては「生徒に後悔させないため、また自分自身も後悔しないために、今、考え得る最善手を打ちたい」と語る。専門科目は日本史。

*1 カリフォルニア大学サンタバー
ラ校やカナダのカルガリー大学
などに進みました。
——海外大進学の希望者は、ど
のような生徒が多いのですか。
アクティブで何にでも興味を持
つタイプが多いようです。「でき
るだけ若いうちに海外に出て、い
ろいろなことを吸収したい」と話
す生徒もいました。
このコースは「生徒が自分自身
でやりたいことを見つける」とい
うのが基本方針です。本校でも海
外大進学講演会を実施したり、留
学・海外進学フェアの案内をした
りはしますが、生徒は自ら積極的
に海外大に進学した先輩に話を聞
いたり、SNSを活用して情報を
収集しています。勉強の合間を
縫って演劇にも打ち込んでいた生
徒は、芸術系の学問が学べる海外
大を自分で探し出し、進学しまし
た。

情報を集めるだけでなく
生徒に深く考えさせる

——高校全体の進路指導に関す
る取り組みを教えてください。

1年次は職業意識を高める取り
組みを行っており、毎月キャリア
ガイダンス講演会を開いています。
加えてSGH事業の課題研究とし

て取り組んでいる「クリティカル
ロジカルシンキング」というプロ
グラムの中では、自分の職業意識
を確認したり、グローバル企業か
ら出された課題に対してグループ
で解決策を考える時間を設けたり
しています。

2年次には、全員で同じ大学の
オープンキャンパスに参加したの
ち、それぞれの志望大学のオープ
ンキャンパスに参加させます。2
回参加させるのは、学びの内容な
どが大学によって違いがあること
を理解させたいからです。
——進路に関する生徒の悩みは
どのようなものがありますか。

海外大学進学コースの生徒の場
合、「時間が足りない」という悩

みが寄せられます。英語の成績も
上げなければなりませんし、出願
する大学の数だけ志望理由書を書
かなければなりません。書いて終
わりではなく、内容を吟味する時
間も必要ですから、タイムマネジ
メントに苦労しているようです。

一方で、国内大への進学希望者
からは、「3年生になって成績が
伸びない」という悩みをよく聞き
ます。しかし、私たち教員からす
ると、表面的な部分だけ見て志望
大を決める生徒が多いことに問題
を感じています。大学の情報は積
極的に集めていますが、「なぜ、
その大学でなければいけないの
か」を深く聞いていくと、言葉に
詰まってしまうケースも多くあり
ます。そのままではミス
マッチな進学をしてしま
うことにつながりますか
ら、生徒に考えさせる機
会を与えるため、年間5
回程度の面談を行っています
ます。



います。生徒側から見れば、自分
が相談しやすい教員に相談できる
というメリットがあります。

調査書では実績以外に
成長度を評価してほしい

——来年度（2018年度）の
入学生は、大学入学共通テストを
受験する最初の学年になります。
新入試への対応はすでに考えてい
ますか。

いろいろと対応策を検討しては
いますが、入試改革自体が流動的
な部分もあるため、本格的な対策
はスタートしていません。しかし、
本校ではSGHの活動はもとより
通常の授業においても、「思考力・
判断力・表現力」の育成を意識し
て取り組んでいます。ここを徹底

高校訪問
ワンポイントアドバイス

学生の姿がイメージできる
具体的な説明をしてほしい

高校訪問にいらっしゃる大学の皆さんは、新しい
教育プログラムなどについて、積極的にアピー
ルされます。しかし、「それによって実際の学生が
具体的にどう変わったのか」までは、あまり見え
てきません。それがないと、教員も生徒にその大
学を勧めにくいですし、生徒自身も自分の未来
図が描けません。入学後の学生の成長にまで
踏み込んで、説明していただきたいですね。

●国際情報高校 ▶1992年に開校▶国際文化科、情報科学科の2
学科▶2013年度海外大学進学コース開設。2015年度SGHに指定さ
れる▶2016年度の合格実績は国公立大学70名(現役のみ)、私立大学
の主な合格実績は、法政大、日本大、専修大、東洋大など。海外大の合格
実績は、アメリカ、カナダの17大学。海外大進学者は4人。

海外大志望の生徒は
アクティブかつ
好奇心が強い

成果や実績だけでなく
「高校での成長度」を
大学に評価してほしい

まとめ

——多面的・総合的評価に関し
て、高校側から大学に「この部分
を評価してほしい」という要望は
ありますか。

高校3年間というのは、生徒が
大きく成長する時期です。調査書
に書かれた成果や実績だけでな
く、その生徒の「高校入学後の成
長度」を評価してもらえるとあり
がたいですね。そうした生徒は大
学入学後も、さらに伸びる可能性
を秘めているので、まさに大学が
求める人材ではないでしょうか。